

※※掲載しているイベント・休館日などの情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて中止または変更になる場合があります。最新の情報は図書館ホームページをご確認ください※※



岡中央図書館 TEL 24-1507

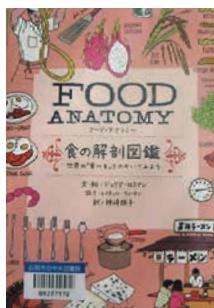
【3月の休館日】

7日月・14日月・21日月祝・22日火・28日月・
31日木

イベント情報、資料検索・予約は図書館HPで▶



おすすめ！新着本



FOOD ANATOMY 食の解剖図鑑

ジュリア・ロスマン／著

カラフルな絵と手書き風の文字で絵本のように読み進めることができます。また、ところどころにレシピも掲載されているので、料理にもチャレンジできます。

(大和書房)

おめんです3

いしかわこうじ／作・絵

「まねきねこのおめんかぶっているのだあれ？」お面をもっている手やはみ出ている耳からだれがお面をかぶっているか当ててみよう！みんなはどのお面がかぶりたくなかったかな？

(偕成社)

【3月のおはなし会】

◆こども図書館

(午前10時30分～)

5日火 おはなし玉手箱

10日木 ひよこのおはなしかい

19日火 むかしむかしのおはなし会

(午後2時30分～)

12日火 おはなしフレンズ

4月1日

郷の本棚やさと図書館が開館します

「郷の本棚やさと図書館」は中央図書館の利用者カードで利用できます。

※中央公民館図書室で使用していたカードもそのまま利用できます。



▶東大橋原遺跡で表面採集されたヒ
スイの大珠



時の記憶

シリーズ196

「大珠からわかる

他地域との交流」

岡文化振興課（支所）

TEL 43-1111 (内線 1456)

写真は、東大橋原遺跡で表面採集された大珠です。大珠は、今までいうペンドントのようなもので、特別な地位や役職にあつたものが使用していたと考えられています。石岡市ではほかに弁財天遺跡（染谷）で大珠が見つかっています。

東大橋原遺跡で発見された大珠の原材料はヒスイであり、その産地は新潟県糸魚川市域に限定されます。このことから、東大橋原の人々と糸魚川地域の交流があったことが確認できます。

このように、一つの遺物だけでも、他地域との交流の様子を読み取ることができます。

現在ふるさと歴史館では、「東大橋原遺跡・石岡市の縄文時代」と題し、東大橋原遺跡で出土した様々な遺物から石岡市の縄文時代を探る展示を開催しています。

ふるさと歴史館第27回企画展

「東大橋原遺跡・石岡市の縄文時代」

期間／4月3日火まで

場所／ふるさと歴史館（総社1-2-10）
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）
※新型コロナウイルスの影響により、開館状況が変わることあります。お出かけ前に最新情報をご確認ください▼



文芸いしおか

俳句

いしおか俳句同好会

冬の虹 手合はす母の泣きばくろ
初曆明るい未来隠れをり
歌留多とり手加減なしで孫に勝ち
駅伝の実況いつか寝正月

小泉 ちよ子(東光台)
山口 美津子(総社)
四日市 ゆみ子(旭台)
若色 茂(山崎)

やさと俳句会

落葉踏む音からやかに裾の道
果樹の里抱き静かに山眠る
元日や明けて心の一ページ
筑波加波つなぐ稜線初がすみ

松崎 淑子(細谷)
山崎 景子(瓦谷)
鈴木 邦翠(下林)
石田 誠一郎(瓦谷)

石岡俚謡会

俚謡(都々逸)

赤い南天 ついばみながら 鳥は唄つて 春を呼ぶ
初日の出が 窓辺に射して 色も輝く シクラメン
春はすぐそこ 菜の花だより うちの初孫 立ちました
春はすごいね 草木も人も ほっこりさせるよ 優し風

坂下 蝶蛉(国府)
醍醐 正夫(東大橋)
若色 茂(山崎)
篠原 美千代(国府)

母よ元気で 今年もいてと 升る初日に 手を合わせ
初の賀状に 嬉しい便り 春を一筆 福寿草
晴れて婚礼 長年待って 嬉し恥ずかし 玉の輿
コロナ負けずに 新年迎え 家族そろって 初詣

前島 くに子(貝地)
香俱耶姫(南台)
小川野 蛙(府中)

短歌

石岡短歌同好会

大き窓洗えばアーチのくつきりと水かけるたび虹色帯びて
元氣かいコロナ鬱です。お願いです。澄んだ空氣とおしゃべりをください。

入澤 薫(石岡)
田村 满佐(南台)

めつたには今は見られぬ霜柱なつかしく踏む崩れゆく音

離婚した女優いい妻演じてる
似顔絵を見たらびっくり皺の数
新生活今いるここが分岐点

関 きみ子(柿岡)
醍醐 正夫(東大橋)
北白川 令(石岡)

投稿作品

流れるや逢瀬ならなむ恋瀬川

初春に明日を夢みて歩みなり

豊作ののろしのごとしすくぼやき
羽生 俊(柴内)

西村 静江(茨城)
佐川 裕一(三村)

川柳

いしおか川柳会

離婚した女優いい妻演じてる
似顔絵を見たらびっくり皺の数
新生活今いるここが分岐点

関 きみ子(柿岡)
醍醐 正夫(東大橋)
北白川 令(石岡)

文化協会だより

などを表現したり、恋などの願望だったり、時事的なニュースを詠んだり。つやっぽいことを詠む人もいますが、お色気はあくまで上品にサラリと詠むことになっています。



会では会員1人につき2つの作品を月報誌に発表しています。また、月例会を毎月第2金曜日に図書館で開催しています。

問石岡俚謡会 TEL 090-4391-5434 (助川)

第36回 「石岡俚謡会」

俚謡は都々逸とも言われています。石岡は江戸時代に活躍した初代都々逸坊扇歌(以下、扇歌)が晩年を過ごしたといわれるゆかりの地です。扇歌は希代の音楽家として三味線を弾きながら、独特の節回しを巧みに操り、庶民に人気がありました。しかし、幕政批判に及び江戸を追われ、姉の嫁ぎ先の石岡へ来たそうです。国分寺には歌碑と墓があり、風土記の丘にも歌碑があります。

石岡俚謡会では、七七七五の26文字の短詩型文芸を作っています。作詞の材料としては、季節の花や風景を詠んだり、孫子の情景・夫婦の愛情